

數千仞の巖あり、そを回りて絶頂にいたる十步許りの平地あり、石佛の觀音一區有、此山の西に木賊川トガサカワとて、高遠へ流る、川有、風土記に、巨麻郡、西限木賊川と云は是也、又甲斐の方に流る、川は釜無川と云、

〔裏見寒話山河〕駒ヶ嶽 戊方

聖德太子金蹄馬に召され、天より此絶頂へ降り給ふ、其跡山の形、馬に似たりと云、山形馬の面に似たり、大風吹んとしては、此巖に綿の如くなる雲かゝる、間もなく、西北の大風落し來る、信州堺なり、峻嶺なれば、人跡絶るといふ、

〔甲斐國志三十〕巨摩郡武川筋

一駒ガ嶽、横手、臺ガ原、白須諸村ノ西ニ在リ、樵蘇スル者、山租若干ヲ貢ス、山上ヲ甲信ノ界トス、大武川ニ沿テ、南ノ方山中ニ入ルコト若干里ニシテ、石室二所アリ、下ヲ勘五郎ノ石小屋ト呼ビ、上ヲ一條ノ石小屋ト呼ブ、此ヨリ上ハ絶壁數拾丈ニシテ攀躋シ難ク、樵夫獵丁ト雖モ至ラザル所ナリ、遠ク望メバ、山頂ノ巖窟ノ中ニ、駒形權現セイガノチ安置セル所アリ、尾白川山上ヨリ發シ、瀑布ト爲リ、級ヲ拾ヒテ懸巖ヲ下リ、其下ハ潭トナル、是ヲ千箇潭ト名ク、奇勝殊絶ナリト云、又釜無川、大武川モ、皆ナ此山ヨリ發源ス、

〔風流使者記〕驕前望駒嶽甚近、山之不毛者三成、皆似焦石疊起者、岩稜歷々可數、形勢獰然、不似前此芙蓉唉容相迓者、候迎者云、上宮大子驅駒、乃吞此山谷所出泉流而生、山上無有祠宇、相傳山臊木客往々而在、故土人不敢登、昔有一人、慙而勇、齋糧躡、絶頂見一老翁、相責曰、此上仙福地、非汝曹當詣處、言訖、猝其髮放岩下、則在己屋山後、二子有詩、

仙人曾此啓行厨、青鳥忽傳玉帝呼、鉢裏胡麻喫殘去、留爲雲際黑模糊、

茂卿

神仙蹤跡見須臾、十二玉樓忽有無、帝子朝天駕天馬、猶望紫氣繞星樞、

省吾